

用語解説 どういう意味なの？

ICT(アイシーティー)

Information and Communication Technologyの略。

通信技術を使い、人とインターネット、人と人がつながる技術のこと。
【具体例】リモート技術、メール、チャット、SNSの活用、通信販売の利用、ネット検索

IoT(アイオーティー)

Internet of Thingsの略。

モノをインターネットに接続することで、離れた場所から対象物をコントロールしたり、モノ同士の通信を可能にしたりする技術。

【具体例】自動運転、スマート家電遠隔医療、モニタリング

AI(エーアイ)

Artificial Intelligenceの略。

人工知能と呼ばれる。人工的に作られた人間のような知能やそれを作る技術のこと。蓄積されたデータから特徴や状況を割り出し、それを基に判断やモデル化する。

【具体例】スマートスピーカー

Society5.0(ソサエティー.5.0)

超スマート社会の別称。

サイバー空間と現実社会を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する。ロボット、人工知能、ビッグデータ、IoT、新たなネットワーク技術・デバイス技術などを駆使し実現を目指す。

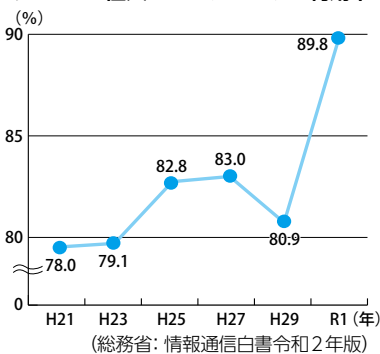


1 スマホを触っている人を見かけることも当たり前になった。2 浜岡中学校では休校中にオンライン授業が行われた。3 感染リスクを避けるために、会議がリモートで実施されることも増えた。4 ICTの進歩で可能になった電子決済

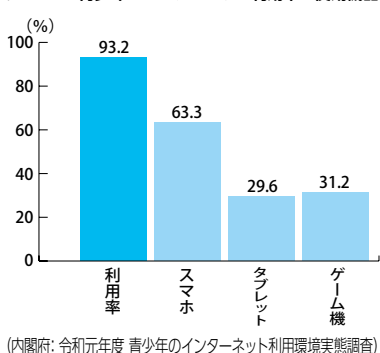


(内閣府作成資料)

グラフ1: 個人のインターネット利用率



グラフ2: 青少年のインターネット利用率と使用機器



Tや人工知能(AI)に関する技術開発を進めている。ロボットやAIで経済発展と社会課題の解決を図り、一人一人がより豊かな生活を営むことができる「Society5.0」(超スマート社会)の実現を目指すためだ。

このような中、今年に入り新型コロナウイルスが蔓延。コロナ禍で国民の生活に不便が生じていることに鑑み、政府のIT戦略本部は7月、「世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」を打ち出し、国民が安全で安心な暮らしや豊かさを実感できるデジタル社会を実現すると動き出した。

9月に発足した菅内閣でも行政手続き全般の迅速化を目指し、デジタル庁を新設すると発表。こうした動きからも、今後社会全体のデジタル化が一層加速し

ていくことがうかがえる。

近い将来、たくさんの仕事を人間の代わりにAIやロボットが担う日が訪れるだろう。今までの暮らしからは想像もつかないような社会を私たちだけではなく、子どもたちも生きていかなければならない。

子どもは新しいものへの順応も早く、既然大勢の子が便利で楽しいメディアを柔軟に使いこなしている。その一方で、メディアの利用には、ネット依存などに代表されるように「のめり込んでしまふ」という危険もはらんでいることを忘れてはいけない。

子どもたちは、今後メディアとどう向き合っていかなければならないのか。今回は、メディアの光と影を探り、未来に向けた子どものメディアの利用方法を考えていく。